



板一小だより

第 462 号

令和7年4月7日発行

板橋区立板橋第一小学校

校長 荻久保 剛正

【教育目標】**知恵** 自分で考え、表現できる子 **心** 思いやりをもち、認め合える子 **元気** 心と体を大切にし、学び続ける子

【保幼小中連携】 板三中・板一小・板八小・中根橋小

「小中一貫板三エリア」4校で一貫した教育理念の下、義務教育9年間で子どもたちを育てます。

新たな歴史の始まり

校長 荻久保 剛正



お子様の進級・入学、おめでとうございます。本年度は、全校児童551名、学級数18学級でスタートしました。

昨年度は、創立150周年を迎え、長い歴史を振り返り、板一小の伝統を再確認するとともに、地域で育つ喜びを感じることができ貴重な機会となりました。今年度は、新たな素晴らしき歴史の1ページを刻んでいくことを目標とし、今までの取組を見直しつつ、子どもファーストで新たな取組へと挑戦して参ります。今後とも本校の教育活動へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

今年度も、一人ひとりの子どもたちが、生き生きとそして、笑顔いっぱい安心して学校に通うことができるように、教職員が力を合わせていくことはもちろんのこと、地域や保護者の皆様、近隣の保育

園・幼稚園・中学校などとも連携を密に取りながら、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えております。さらには、周年での経験を活かし、地域で生活していることへの喜びを感じ、これから先の人生で地域で活躍していくことのできる子どもたちとなれるよう、思いを育んで参りたいと考えております。本年度も数名の教職員が新たにチーム板一に加わりました。入れ替わりはあっても、板橋第一小学校の教職員の思いは変わらず、教職員一同が一体となり、子どもたちを迎え入れ、育てていく態勢を整え、校内が活気で満ち溢れるよう尽力して参ります。今日からは、新たに95名の1年生の子どもたち、そして、保護者の方々も加わりました。さらに活気に満ちあふれていくことを期待します。

「子ども一人ひとりのよさを見付け、その力を伸ばすこと」に注力して参ります。そのためにも、教師自身がすすんで学び、自らが変え続けている姿を見せることで手本となり、「自分からすすんで学び、自身の高まりを感じ、常に一步先を見て、自身を変え続けていくことのできる子どもたちに育てていきたいと思います」と伝えています。

子どもたちはどの子も皆、よりよく成長したいという思いとぐんぐん伸びていくための力を兼ね備えています。しかし、よさを自分で見付けることはなかなか難しいことです。子どもたちのよさや可能性を見だし、繰り返し伝えていくことで、自己有用感の高い子どもたちへと育てていこうと考えています。子どもたち一人ひとりをさらに伸ばすため、全職員で一丸となり全力を尽くして参ります。

子どもたちを支えていくため、今年度も保護者、地域の皆様のお力添えを得て「チーム板一」として取組を進められるよう、変わらぬご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

～「自律」と「共生」の実現に向け～

教師の役割：「コーディネーター」と
「ファシリテーター」の2方向

寄り添い、後押しをし、褒めるための準備

児童の学び：「Input」「Think」「Output」
『読み解く力』の育成・さらなる向上
自ら探求し続け、自ら学び続ける

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

・ICT活用の充実・探究的な学び・読み解く力の育成

課題予防的生活指導の徹底（生徒指導提要に基づく）

教育目標

知恵

○自分で考え、
表現できる子

心

○思いやりをもち、
認め合える子

元気

○心と体を大切にし、
学び続ける子

令和7年度 学校経営方針

日々猛スピードで進化を遂げる IT 環境。学校教育の世界でも同様のスピードで変化を遂げています。AI の効率的な活用も視野に入れた新たな取組を創造していきます。自ら学ぶ姿勢の定着をめざし、学ぼうとする意欲を活力とし、その活力を最大限に生かした教育革新に向かうことをめざし、次のような児童を育てていきます。ここ数年で定着した学校での新しい生活様式をベースにさらに修正を加えながら、これからの時代を生き抜いていく児童の姿を創造し、新たな教育活動を創造していきます。効率性も含め、学校教育全般の見直しもさらに進めていきます。自ら創造することのできる子どもたちを育てるためには、板橋区が取組の重点としている『読み解く力』の育成、そして、それに加えて主体性の伸長のために『自ら探究し、周囲と情報を共有しながらともに高まっていく力』を育成することが必要不可欠となってくると考えます。



子どもたちにとってよりよい教育活動とは何か、これからの超スマート社会を生き抜き、その社会を形成していく児童には、一体どんな力が必要となり、小学校の時期にどんな経験をさせておくべきなのかを今年度も継続して追究していきたいと思います。また、年齢に応じた発達、精神的な発達面などでも様々な変容を見せている現代の児童期をリアルに生きている子どもたちの姿をしっかりと見つめ、子どもたち自らが主体的に自分に見合った課題を見付け出し、探究しながら学びを進め、自分自身を変え続けていくことができるように育てていく必要があると考えます。

3つの学校教育目標に基づいた学校経営を展開し、「超スマート社会で生き抜く力として、自ら学び(自律)、互いに認め合う(共生)ことができ、生涯にわたって学び変え続けようとの意欲を身に付けた子どもを育てる。」ことを目標に取組のさらなる改善を図りつつ、教育活動を継続していきます。

学習指導要領でフィーチャーされたワード「主体的・対話的で深い学び」の読み解きは進んでいます。実際の授業の在り方、学びの方向性を常にバージョンアップしていくと同時に、板橋区の重点施策である『読み解く力』の育成をめざし、基礎的読解力を意識した教材研究も進めていきます。

今年度は、「授業のコーディネーター」「授業のファシリテーター」としての教師の役割意識を、さらに向上させ、児童が主体的に学ぶことができる場を用意すること、主体的に活動するための支援・働き掛けにおける教師の役割理解を進めることにも比重を置いていこうと考えています。児童には「情報の受け手」(Input)として確実に情報を受け取らせ、受けた情報を短時間で試行錯誤(Think)させます。さらに、自分自身に合った形に変え、活用する取組を通して活用力を高めさせ、「表現者・発信者」(Output)として情報を発信していく能力・資質をも高めていく教育を継続していこうと考えています。児童一人ひとりが、自分の考えをしっかりとって友達と考えを共有し合い、よりよい Output ができるよう細やかな支援を進めていきます。

《目的》

Society5.0 (超スマート社会) 時代に生き抜く力として必要な自ら学び(自律)、認め合う(共生)ことができ、生涯にわたって学び変え続けることのできる子どもを育てる。そのため、以下のような資質・能力の育成を図る。

- ①多くの情報から正しい情報を収集、取捨選択する力(調べる力・判断する力)
- ②獲得した情報から、新たな学び(新たな価値観)を生み出す力(創造する力)
- ③学びの過程や成果を分かりやすく表現し、他に伝える力(表現し発信する力)
- ④学びを振り返り、修正したり新たな課題を見付けたりする力(学びを再設計する力)
- ⑤知識や学び方を蓄積し、新たな課題に対して利活用していく力(自力解決する力)

《手段Ⅰ》授業革新

- ・インターネットに安易に頼ることなく、図書文献、新聞、取材等の適切な手段を活用していきます。
- ・GIGA スクール構想に基づき、児童が主体的に情報機器を活用する授業を推進していきます。
※クロムブックは常に身近に置き、筆記用具同様の学習ツールとして、児童が自らの判断で使えるようにすることを原則とします。ここでも「自律」意識の向上を図ります。
- ・学習の個別化を図ることに加え、コンピュータ・ネットワークを利用し、教室内外の児童等と学習の過程や成果を共有する「協働学習」を推進していきます。

《手段2》「自律」と「規律」の見直し

学校生活における生活指導上のきまりなどの遵守が、合理的な根拠なく児童の多様性を排除していないか、手段と目的が逆になり単にきまりを守らせることが「目的」化していないか等を見直し続ける。きまりを守らせることが目的でなく、なぜきまりを守らなければならないのかの理由や根拠を考えさせ、自らが律することができるような児童の育成をめざす。

今年度も継続して、以下の観点から学校のきまりや行事、授業等の全教育活動を見直す。

① 学校や学級のきまりが、児童の自律と共生を育てることにつながっているか

② 児童の多様性を認め、児童と視線を合わせて支援を行えているか

③ 各家庭や児童本人の独自性や自律を促すことに寄与するものとなっているか

(例)「授業中遊ぶから」「集中できなくなるから」という理由で、持ち物を限定する意識を改善し、本当に必要かどうかを保護者と児童と一緒に考え、自分自身のことだけでなく、周囲への影響も考えて、ふさわしいかどうかを思考してもらうことに重点を置く。きまり自体も、「自律」と「共生」にふさわしいかどうかを基準として見直す。

《手段3》開かれた学校経営・学級経営

i CS（板橋コミュニティ・スクール）の取組

・CS（コミュニティ・スクール）委員会と連携した学校経営体制

① 年間7回のコミュニティ・スクール委員会での学校経営に関わる会議

② コミュニティ・スクール委員による学校参観と教育内容に関する熟議

③ コミュニティ・スクール委員と教職員による課題の共通理解と改善方策の合同熟議

④ コミュニティ・スクール委員と児童代表によるルールメイキングに関する合同熟議

・学校支援地域本部と密接に連携をした地域学校協働活動

① コーディネート機能の充実

② 多様な活動（より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施）

③ 継続的な活動（地域学校協働活動の継続的・安定的実施）

・小中一貫教育（小中一貫板三エリア）9年間の学びの継続

① 中学校の授業参観を基にした小中9年間の連続性のある年間授業計画の見直し

② 小小連携を見据えた各校での取組情報の共有

・学年担任制や教科担任制（交換授業）の推進

① 学年担任としての周知と学級担当としての取組

② 教科担任制に関わる交換授業（5年生・6年生及び学年状況に合わせた取組）

・特別支援教育に関する研修の充実

① 年間2回の特別支援教育全体会での情報交換と新たな情報の共有